

優秀賞

## 消滅危機言語の保存を目指すゲーム

大塚 誠也（大学院博士課程前期 1 年生：栃木県）

私は、消滅危機言語の保存を目的とした MMORPG ゲームを提案します。

今、世界には、幾つもの「言語」が溢れています。日本語もその 1 つです。当たり前のように使う言語ですが、世界には広範囲で通用する言語に押され、消滅しようとしている言語がいくつもあります。日本でも例外ではなく、アイヌ語や琉球語、八丈語などは深刻な消滅の危機にあります。そのような消滅の危機にある「消滅危機言語」を保存し、後世に残したいと考えました。

そこで、消滅危機言語の話者を雇用し、MMORPG のゲーム内のヒントを消滅危機言語で話すか、テキストチャットで文字を使ってコミュニケーションを取るなどしてもらい、プレイヤーのクエストに関与してもらう仕組みを作れば良いと考えます。

また、ゲーム内で用いた消滅危機言語の音声データやテキストデータを保存することにより、消滅危機言語の音声や文語表現をデジタル的なアーカイブとして保存することも出来ると考えました。

このゲームでは、プレイヤーはゲーム内で消滅危機言語を用いた謎解きを楽しめ、消滅危機言語を使用している方たちには、現実での新たな仕事の提供が出来ます。例えば東南アジア地域など、貨幣価値が日本などの先進国とは異なる地域の消滅危機言語の話者の方であれば、当初は相対的に低賃金で働いていただけなのではないかと考えます。また、消滅危機言語話者の若年層への奨学金の原資とできるかもしれません。

このような方式により、プレイヤー、消滅危機言語使用者の双方にメリットがある、消滅危機言語の新たな保存の試みが可能になると思います。また、消滅危機言語などに興味や知識がなかったプレイヤーがゲームを通じて、消滅危機言語に触れることによって、文化の多様性などに興味を持ってもらえるようになれば理想的だと考えました。

このゲームが、1 つでも多くの消滅危機言語の保存の助けになることを願っています。